

「柿渋」でふるさと弥栄を元気にする！

～弥栄に残る生活の知恵を掘り起こし、再現することにより住民の気持ちを一つにしていく～

浜田市立安城公民館

1 浜田市立安城公民館の概要

中国山脈を背負った、浜田市の水の源、弥栄町。中山間地域で過疎と高齢化が急速に進む人口約1600人の町です。町内の公立公民館は2館。山間部に位置する安城公民館です。

2 事業の概要

(1) はじめに

ふるさと弥栄を残そうという高齢者有志が集ってもらい、知恵を出しあい、情報を共有し、住民同士の交流を図りながら、ふるさと弥栄をつなげていくことが重要な地域課題と考えた。特に「柿渋」は今復元しないとその技術が途絶え、原材料の渋柿の木も利用価値がなくなり、切り倒されて全滅してしまう可能性があるため取り組んだ。UIターン、若い人たちや子どもたちを交えて新たな発想で伝統文化を取り入れた製品開発に挑戦しながら、弥栄に暮らし続ける楽しみと生きがいつくりにつなげていきたい。大人たちの後ろ姿をみて、いつか弥栄を担っていく子どもたちも、生きる力を身につけ、ふるさとを誇りに思い、大切に守っていく気持ちになるきっかけづくりを公民館でしていきたいと考え、事業を企画した。

(2) 具体的な取組

①第1回渋柿隊作戦会議…町内6ヶ所より渋柿を採取



②第2回渋柿隊作戦会議…柿渋について話し合い、柿を仕込む



③第3回渋柿隊作戦会議…前回仕込んだ柿渋の検証 県公連、西生涯学習推進センター視察



④第4回渋柿隊作戦会議…渋張りに挑戦、古民具の修理、修復



⑤第5回渋柿隊作戦会議…襖の裏張りはがし、渋張りに挑戦、反省会と今後を話し合う
県公連、浜田市公民館職員研修を兼ねる



3 事業の成果

- (1) ふるさと弥栄を残したい高齢者と、弥栄暮らしを学びたいという若者が交流できた。
- (2) 渋柿隊という一つの組織を結成したが、その枠外からたくさんの情報が集った。普段かかわりの薄い地域住民の方々が積極的に事業に参加してもらうことができた。
- (3) あらためて、伝えていくことの重要性を再確認できた。

4 課題と今後の取組

柿渋については、来年度は研修に出かけ、記憶があいまいな部分を埋めていきたい。
弥栄でいきがいをもって暮らし続けるために、弥栄暮らしのための先人の知恵や経験、文化等を映像記録に残すことが必要であり、緊急課題とし、今後でも取り組んでいきたい。

終わりに…

「人間の賞味期限の切れたワシらだが、こうして集ってやることができ、若返った。」
「ひとつ、やってみようじゃないか！古臭いことだがワシらでもできることがあった。」
反省会の中で渋柿隊の皆さんから感想をいただいた。公民館にとって最大の原動力である。